資料２-６

「中間とりまとめにおける調整事項を踏まえた令和２年度出水期等における取組内容」

テーマ６　災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進！

令和2年12月18日
福知山市避難のあり方検討会（第４回）

福知山市（危機管理室、教育委員会）

調整事項を踏まえた令和２年度出水期等における取組内容

・児童生徒が自らの命を守るための新たな防災教育の推進！

番号	調整事項	調整先	スケジュール	取組内容
6-1	小学校教諭による防災教育研究プロジェクトチームにより指導案の策定に向けた調整を行うさらに、中学生を対象とした学習計画についても調整を進める。	小学校 中学校 教育委員会	令和2年度から実施	次ページのとおり
6-2	具体的取り組みとして、福知山版防災カレンダーの作成、教科書の災害関連ワードを活用した授業の実施、災害体験者による講演の実施に向け調整を行う。	学校教諭 教育委員会 語り部となる災害体験者	令和2年度から 一部実施	次ページのとおり
6-3	防災、災害対応として子どもたちにできることについて、安全を確保したうえで何ができるのか、指導方法について調整を行う。	学校教諭 教育委員会	令和2年度から実施	次ページのとおり
6-4	我が家の避難計画の取り組みについて、学年を絞って実施する等授業の一環として実施できるのか研究を行う。	学校教諭 教育委員会	令和2年度から実施	次ページのとおり
6-5	地域の防災訓練の参加については、各地域の自主防災組織等との連携・調整が必要であり、学校と各地域の関わりの状況等も考慮しながら調整を行う必要がある。	学校 関係自治会	令和2年度から実施	次ページのとおり
6-6	学校現場の対応としても、年度当初の通学路等の点検、ハザードマップ等による確認を行い、状況把握を行うよう調整を行う。	学校 教育委員会	令和2年度から実施	次ページのとおり
6-7	災害時等の児童の引き渡しについては、児童の安全を第一に考え、災害リスクも考慮したうえで学校での一時待機等も視野に柔軟な対応を行えるよう整理を行う。	学校 教育委員会	従来から実施している	次ページのとおり

※調整先については、今後も追加等により更に取組みを進めていく。

調整事項を踏まえた令和２年度出水期等における取組内容

・取組内容と課題

赤字・・・成果、黒字・・・調整事項

番号	取組内容	課題と今後の方針
6-1	小学校教員による検討会を組織し、阪本教授に指導いただいて指導案を作成した。全校対象の研修会を経て、夏休み前に全小学校の全学年で実施した。	小学校低学年には高度すぎる（地図が読めない・内容が盛りだくさんすぎた）ため、より基本的な身の守り方を重視した内容に変えるなどの工夫を行う。
6-2	①福知山版災害カレンダーの下地作成済み。詳細な個別資料や活用方法を今後検討する。 ②コロナ禍のなかでどのように外部の人間を招くかという問題があり、実施していない。	①発生災害の詳細や学習単元との連動を盛り込んだ内容としたいが、授業で活用するには、教員が事前に相当の研修をする必要がある。 ②講演者の選定が難しい場合は、市立・府立図書館と協力を得て、災害の教訓が得られるような図書を選定・活用することも計画している。学級文庫としての配置も含め検討する。
6-3	検討会において、学年別に学習内容や課題を検討し、子どもたちが主体的にできることを学び考え、実践力を育成する指導案を作成した。 中学校における学習内容については、現在行われている学習内容を基礎にして進めることを確認した。	「避難の際に低学年の子にも気を配れるようになろう」ということも盛り込む予定ではあったが、そればっかりになって自分の避難がおろそかになっては本末転倒になるため、方法に注意が必要である。 中学生向けには、避難所での振る舞いやボランティアなど、より社会参画・社会貢献を意識した内容をさらに充実させていく。
6-4	「我が家の避難計画」、あるいはその基礎となるワークシートを、指導案に基づき作成した。全小学校対象の研修会を経て夏休み前に全小学校の全学年で実施した。 学習で使用したワークシートを活用して、家族と学習内容を共有し、保護者の理解も深めるよう図った。	今後も継続し、定着を図る。
6-5	今回の防災学習の中で、家庭で学習内容を共有し、保護者の防災意識を高め、地域とのかかわりを深めてもらうよう図った	子どもたちの安全を確保するためには、地域と保護者の理解と協力が必要である。今後とも、学習内容を保護者とも共有するよう努め、学校だよりや学級通信により、地域の防災訓練の情報や子どもたちの命を守るための取り組みについて周知し、防災意識の向上を図っていく。
6-6	防災教育実施前や実施時に、ハザードマップで各校区の状況や各家庭の状況や危険個所などを教員及び児童が確認した 各学校では、1学期に通学路の危険個所などを点検確認している。	ハザードマップの活用は非常に有効であることを確認した。 通学路の点検と合わせて、今後も継続する。
6-7	これまでから、警報発令時等、児童の保護者引き渡しについては、安全第一で、学校での待機等の措置をとっている。	今後も継続する。

調整事項を踏まえた令和２年度出水期等における取組内容

・市民の生涯を通じた防災教育の推進！

赤字・・・成果、黒字・・・調整事項

番号	調整事項	調整先	スケジュール	取組内容
6-8	マイマップ・マイタイムラインを活用した避難訓練の実践等を行っていくために、ローカルエリアリスク情報や避難誘導体制等をどのように書き込み活用していくのか整理を行う。	自主防災組織	最終とりまとめに反映	モデル地区である観音寺、大江町蓼原で、マイマップ・マイタイムラインの検証訓練を実施
6-9	自主防災組織の連携を行っていくための体制のあり方について協議・調整を行う。	自主防災組織	最終取りまとめに反映	「福知山自主防災ネットワーク」の取り組みにおいて、他地域への紹介。普及推進の事例紹介パンフレットの作成準備
6-10	災害の履歴を伝承していくために、常に災害情報等の情報収集を行い、職員への研修を行うとともに、全国の災害現場への職員の派遣等により防災意識の高い職員と組織づくりを進める。	国土交通省 自主防災組織	令和2年度から実施	過去の由良川の洪水災害に関して、国土交通省が市と連携し、治水記念館の啓発パネルのリニューアルを図った。 治水記念館との連携、活用について、今後調整

※調整先については、今後も追加等により更に取組みを進めていく。

防災教育の実施①

テーマ：　***『逃げ時　逃げ場所　事前に確認』***

・指導案：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の阪本真由美教授の指導を受け、作成。

・伝達研修：７月２日（木）

↑伝達研修の様子

全16小学校安全主任が参加

テーマ6-1～6-7関連　児童生徒が自らの命を守るための新たな防災教育の推進

防災教育指導案　低学年用

1　対　象　低学年
2　単元名　命を守る３則「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」
3　本時の目標
・水害や福知山市の災害について知る。
・洪水、土砂災害が起きた時に備えて、自分の身を守るために必要なことを知る。
4　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	1 福知山市の大雨が降った場合に起きる災害の様子を知る。	○雨がたくさん降り、大雨が続くと、どんなことが起こるかを考えさせる。 ・川の水が増えるから外に行けない ・家の中に水が入る ○実際に起こった災害の写真を提示し、どのように行動すればよいかを考えさせる。	写真 (福知山市の災害の様子) できれば校区
	2 めあてを知る。	○福知山市は大雨による災害が多い地域であることを踏まえ、命を守るための学習の必要性を理解させる。 ・「釜石の奇跡」の例に触れ、自分で考えて行動することの大切さを伝える。	
	自分で自分の命を守る行動について知ろう　「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」		
展開	3 「逃げ時」について考える。 ①サイレンについて知る。・避難準備・避難勧告・避難指示	○雨が降り続ければ避難を知らせるサイレンが鳴ることを知らせる。 ・サイレンが聞こえない場合もあるので、大雨の時はテレビ等から意識して情報を得るように伝える。	
	②サイレンが聞こえてきたら、どんな行動をしたらよいかを考え、話し合う。	○防災無線放送からのサイレンの音を聞かせてどのような行動をとらなければいけないかを知らせる。 ・一人の時でも自分で考えて避難をする。 ・避難所などの安全な場所に避難する。 ・コロナの関係で、必ずしも避難することがよいとは限らないが、命を守ることを最優先する。(マスク、消毒薬を持って避難する。)	サイレンの音源
	4 「逃げ場所」について考える。 ①周辺の浸水想定深について知り、安全な場所と危険な場所の確認する。	○ハザードマップをスクリーン等で提示し、地区ごとの災害予想（浸水深や土砂災害など)を知らせ、自分の家の周辺の危険なところと安全なところを確認させる。	校区のハザードマップ
	②災害予想により自分はどこに逃げればよいかを知る。	○自分はどこに避難すればよいのかを確認する。想定にとらわれず、安全な所に避難することを示唆する。	
	5 「事前に確認」について考える。	○事前にしておくことを考え話し合わせる。 ・避難所を知っておく。 ・家族と出会う場所を決めておく。 ・家族の電話番号を覚えておく。	
まとめ	6 学習のふり返りをする。	○「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」を復唱させ、家に帰ってから今日の学習について保護者に伝えるように指示する。 ○児童から保護者に対して本時の学習内容について知らせることで、防災意識を高め市の防災事業を啓発する。	ワークシート

防災教育指導案　高学年用

1　対　象　高学年
2　単元名　命を守る３則「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」
3　本時の目標
・洪水、土砂災害が起きた時に備えて、自分や身のまわりの人を守るために必要なことを考えることができる。
4　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	1 福知山市の洪水、土砂災害の様子を知る。	○洪水、土砂災害の際どんなことが起こるかを想定させる。 ・道路が冠水して歩くところが分からなくなる ・低いところは浸水する ・山が崩れて通行止めになる ○実際に起こった災害の写真を提示し、どのように行動すればよいかを考えさせる。	写真 (福知山市の災害の様子)
	2 めあてを知る。	○福知山市は洪水、土砂災害が多い地域であることを踏まえ、命を守るための学習の必要性を理解させる。 ・「釜石の奇跡」の例に触れ、自分で考えて行動することの大切さを伝える。	
	自分で自分の命を守る行動について考えよう　「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」		
展開	3 「逃げ時」について考える。 ①　サイレン、Jアラートについて知る。・避難準備・避難勧告・避難指示	○雨が降り続き、避難の必要がある時は、サイレンやJアラートが鳴ることを知らせる。 ・避難準備・避難勧告・避難指示と災害避難情報、緊急地震速報の違いを確認しておく。	
	②サイレンが聞こえてきたら、どんな行動をしたらよいかを考え話し合う。	○防災無線放送からのサイレンの音を聞かせてどのような行動をとらなければいけないかを知らせる。 ・下級生や体の弱い人を助け、率先して避難をする。 ・想定にとらわれず、安全な場所に避難する。 ・コロナの関係で、必ずしも避難することがよいとは限らないが、命を守ることを最優先する。(マスク、消毒薬を持って避難する。)	サイレンの音源
	4 「逃げ場所」について考える。 ①　周辺の災害予想について知り、安全な場所と危険な場所の確認をする。	○地区ごとに集まり、ハザードマップを見ながら自分の住んでいる地区の災害予想を知ることで自分の家の周辺の危険なところと安全なところを確認させる。	校区のハザードマップ
	②　災害予想により自分はどこに逃げればよいかを知る。	○避難所に限らず、安全なところに安全な経路を通って避難することを示唆する。	
	5 「事前に確認」について考える。	○事前にしておくことを考え話し合わせる。 ・ハザードマップを見ておく、出会う場所を決めておく、緊急時の連絡手段を考えておく等、家族と情報を共有しておく。 ・備蓄を整えておく。(必要なものはすぐ持ち出せるようにしておく。)	
まとめ	6 学習のふり返りをする。	○「逃げ時　逃げ場所　事前に確認」を復唱させ、家に帰ってから今日の学習について保護者に伝えるように指示する。 ○保護者にも本時の学習について知らせ、避難するときに大切にすることを啓発する。	ワークシート

防災教育の実施②－１

テーマ：　***『逃げ時　逃げ場所***
事前に確認』

・授業実施：７月中旬～下旬
対象：***全小学校の全学年***

・***ハザードマップを用いて***
自分の家や通学路で起こる
災害を確認し、
地域の実情に応じた防災
について学習。

↑防災教育の授業風景

子どもたちはハザードマップに
くぎ付けになり、逃げ場所を確認

防災教育の実施②－２

↑防災教育の授業風景
『逃げ時　逃げ場所　事前に確認』のテーマに沿って、考える子どもたち

↑授業後の職員室入り口
子どもたちにも教職員にも
根付いていくことが期待できる

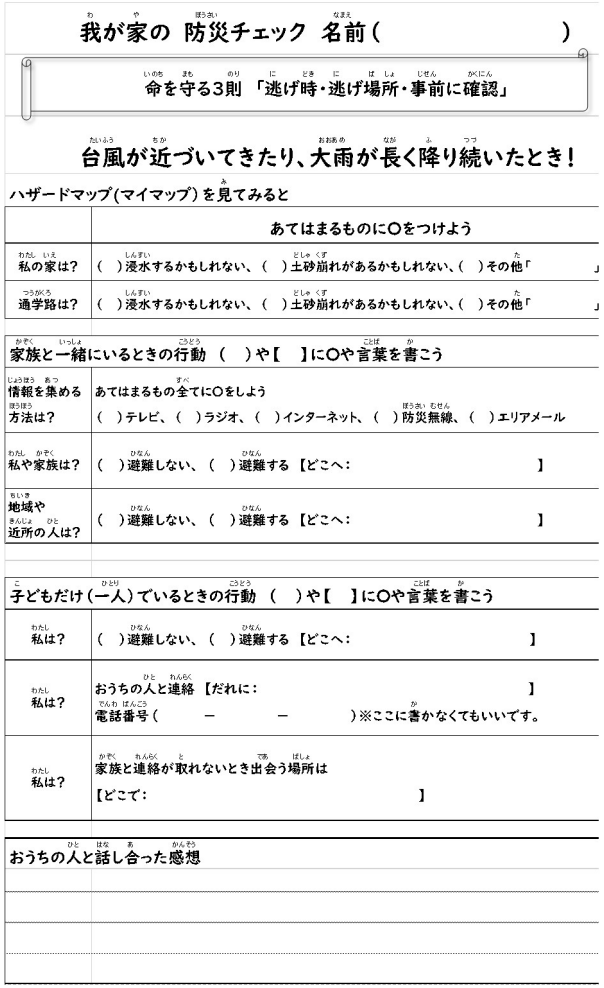
防災教育の実施②－３

・授業で全校共通のワークシートを配布し、全児童が取り組んだ。

・各家庭で逃げ時、逃げ場所を保護者と確認し、保護者と授業内容を共有することとした。

↓

子どもたちの学習から『***我が家の避難計画***』へ。



我が家の 防災チェック 名前（　　）

命を守る3則 「逃げ時・逃げ場所・事前に確認」

台風が近づいてきたり、大雨が長く降り続いたとき！

ハザードマップ(マイマップ)を見てみると

	あてはまるものに○をつけよう
私の家は?	(　)浸水するかもしれない、(　)土砂崩れがあるかもしれない、(　)その他「　　」
通学路は?	(　)浸水するかもしれない、(　)土砂崩れがあるかもしれない、(　)その他「　　」

家族と一緒にいるときの行動　(　)や【　】に○や言葉を書こう

情報を集める方法は?	あてはまるもの全てに○をしよう (　)テレビ、(　)ラジオ、(　)インターネット、(　)防災無線、(　)エリアメール
私や家族は?	(　)避難しない、(　)避難する【どこへ:　　】
地域や近所の人は?	(　)避難しない、(　)避難する【どこへ:　　】

子どもだけ(一人)でいるときの行動　(　)や【　】に○や言葉を書こう

私は?	(　)避難しない、(　)避難する【どこへ:　　】
私は?	おうちの人と連絡【だれに:　　】 電話番号(　　－　　－　　)※ここに書かなくてもいいです。
私は?	家族と連絡が取れないとき出会う場所は 【どこで:　　】

おうちの人と話し合った感想

↑ワークシート

家庭で保護者と一緒に確かめることができる内容としている

我が家の 防災チェック 名前（[redacted]）

福知山っ子の命を守る合言葉「逃げ時・逃げ場所・事前に確認」

台風が近づいてきたり、大雨が長く降り続いたとき！

ハザードマップ（マイマップ）を見てみると

	あてはまるものに○をつけよう
私の家は？	（　）浸水するかもしれない、（　）土砂崩れがあるかもしれない、 （D）浸水や土砂崩れの心配はない、（　）その他「　」
通学路は？	（○）浸水するかもしれない、（　）土砂崩れがあるかもしれない、 （　）浸水や土砂崩れの心配はない、（　）その他「　」

家族と一緒にいるときの行動（　）や【　】に○や言葉を書こう	
情報を集める方法は？	あてはまるもの全てに○をしよう （○）テレビ、（○）ラジオ、（○）インターネット、（○）防災無線、 （○）エリアメール
私や家族は？	（　）避難しない、（○）避難する【どこへ：家　】
地域や近所の人は？	（　）避難しない、（○）避難する【どこへ：その人の家や高い所】

子どもだけ（一人）でいるときの行動（　）や【　】に○や言葉を書こう	
私は？	（　）避難しない、（○）避難する【どこへ：学校より高い所　】
私は？	おうちの人と連絡【だれに：お母さん・お父さん　】 電話番号（　－　－　）※ここに書かなくてもいいです。
私は？	家族と連絡が取れないとき出会う場所は 【どこで：家　】

おうちの人と話し合った感想
いつ防災が起こるか分からないから、みんなが安全に、避難できるようにしたいです。

家庭で話し合った子どもたちの感想（一部抜粋）

おうちの人と話し合った感想
色々わかったし、ひなん場所もわかってよかったです。

おうちの人と話し合った感想
にげばしょをしっていると、たすかりやすくなるからもしものじかんがないです。

おうちの人と話し合った感想
いつ防災が起こるか分からないから、みんなが安全に、避難できるようにしたいです。

防災教育の実施③

・基本的な学習としては予定通りに全体実施し確立できたので、来年度以降も継続して実施し、定着を図っていく。

・小学校低学年には高度すぎるかもしれないなどの課題は、来年度に内容を改正する。

・中学生向けには、従来から指導している避難所での助け合いや、災害時のボランティアなど、子どもたちが主体的にできる『***社会参画・社会貢献の意識***』についてさらに推し進めた内容とすることを検討。

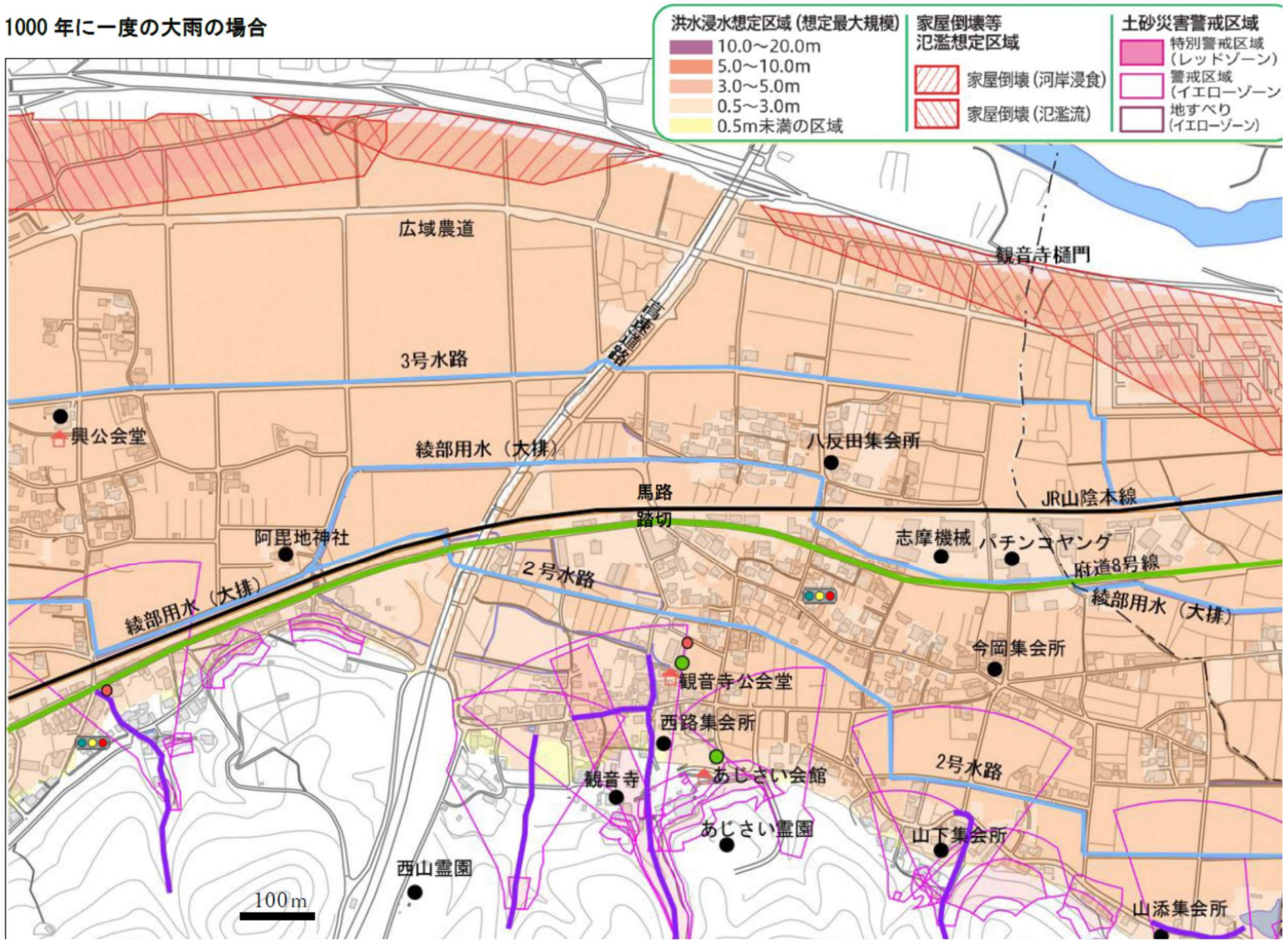
各校取組の一例（11月2日）

↑非常食の試食や簡易ベッドの組み立てなどを実習
（協力：危機管理室）

↑防災教育を経て積極的に質問するなど、主体的に取り組む子どもたち

観音寺地区の訓練によるマイマップの実践

新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、マイマップに基づく車両避難について、地区住民が各自で、令和2年8月30日の前後1週間の間に、近隣の高台にある大型スーパーの駐車場に避難を行う訓練を実施。



浸水災害が迫った時，観音寺住民は

1）浸水センサーで増水を検知したら，自治会の対策本部より有線等でお知らせします．すぐに対策・避難行動に移ってください．

2）自宅の２階以上へ移動しにくい方は，車で日新コミセンへ避難してください．

3）車は寺駐車場などに避難させてください．

4）道路浸水前なら，車で長田野方面に移動することも避難の一つ．プラント３などの駐車場は市と災害時使用の協定を結んでいます．トイレは運動公園駐車場，長田野体育館などにあります．

5）自宅の二階より上に避難をしてください　ただし，土砂災害警戒区域では，できるだけ自宅外へ，最小限　自宅二階の山と反対側の部屋に移動してください．

テーマ6-8関連　マイマップ・マイタイムラインを活用した避難訓練の実践

蓼原地区の訓練によるマイマップの実践

- 令和2年8月30日、マイマップに基づく要配慮者の避難支援訓練を実施。
- コロナ禍における要配慮者避難態様を確認。

その他市内では、75自治会で訓練実施
→うち25自治会でマイマップに基づく訓練

マイマップ・マイタイムラインを活用した実践訓練を拡大！

テーマ6-9関連　自主防災組織の連携推進

両丹日日新聞　2020年（令和2年）6月26日　金曜日

市危機管理室の森下室長による講演に耳を傾けた

感染防止踏まえた対策を
自主防災ネットワーク　避難の分散化など学ぶ

福知山市民でつくる自主防災促進グループ「福知山自主防災ネットワーク」は21日、猪崎の三段池公園総合体育館で、水害への備えを学ぶ研修会を開いた。新型コロナウイルスの感染防止を踏まえた対策も学び、今後の活動の参考にした。

市危機管理室の森下邦治室長が講師を務め、「もしもの大洪水にどう備えるか」と題して講演。過去に起きた市内の水害の歴史を振り返り、自治会ごとに作成する防災マップ「マイマップ」の取り組みなどを紹介した。

また感染防止を踏まえた避難も解説。森下室長は「避難者の分散化を図る」「広域避難所などの感染防止対策を徹底する」「危険区域に住む人はためらわず、確実に避難を行う」という3つの柱を挙げて説明した。

分散化では「密集を避けるため、市が開設する避難所だけでなく、災害が発生する恐れのない知人宅、地区避難所、近隣の高台などへの避難の選択も推奨しています」と周知への協力も求めていた。

実践報告では、寺町と和久市町、私市、大江町蓼原の各自治会が発表。私市では、自主防災活動で早めの避難を呼びかけ、安全な場所にある寺院を避難所にしていることなどを伝えた。

同ネットワークは、水害時の自主避難、高齢者ら避難困難者の支援活動を地域で広めるための組織。各地区の自主防災関係者、福知山公立大学生、府議、市議ら41人で構成している。

この日は、設立総会があり、活動の基本方針や役員なども正式決定し、前自治会長会会長の大西利明さんが代表に就任。今後、研修会や意見交換会などを開き、自治会や団体などが自主防災の取り組みを実施してもらえるよう、働きかけていく。

両丹日日新聞　2020年（令和2年）6月18日　木曜日

自主防災の先進事例紹介
福知山ネット　活動資料集発行
3団体の取り組み掲載　避難困難者の支援策など

福知山市民でつくる自主防災促進グループ「福知山自主防災ネットワーク」は、市内の自治会、団体による避難困難者らの命を守る自主防災の取り組みを紹介した「活動資料集1」を発行した。自主防災活動の計画を立てていない自治会などが活用し、計画を策定する際の参考にしてほしいという。

ネットワークは、水害時の自主避難や高齢者ら避難困難者の支援活動を地域で広めていくことを目的に、各地区の自主防災関係者、福知山公立大学生、府議、市議らで組織。21日に市内で設立総会・研修会を開く。

活動は、市内の自治会や団体で自主防災の取り組みを実践してもらうための研修会、意見交換会の開催などで、活動資料集の発行も取り組みの一つ。研修会などで発表された先進事例の報告を中心にまとめて冊子にし、幅広く情報共有できるようにしていく。

第一弾は、ネットワークの研修会がまだ開かれていないため、1月に市内であった「災害時の避難困難者を守る実践報告会」で発表した大江町蓼原自治会、旧市街地の西町自治会、子育て支援と防災活動を進めるNPO法人わかばプラスの3団体の活動事例を中心に紹介している。

蓼原自治会は、地区内の避難困難者の調査、避難支援が必要な世帯を地域マップに示したりしている取り組み、水害時に実施する住民へのラインでの情報伝達、車の避難場所の設置などの方策を載せた。

また西町自治会は、高齢者らの避難支援の準備を早い段階で開始する取り決め、洪水の危険がない暴風だけの時も希望者の避難態勢を整えていることなどを説明。自治会で使う個別避難支援計画書のひな型や災害への備えを呼びかける住民向けの文章なども掲載している。

わかばプラスは、2014年の豪雨災害時に実施した託児や洗濯代行、支援物資の手配、絵本の読み聞かせなどの取り組みを紹介。災害時に子育て世代に特化した支援も大切として、そうした世代を把握するために必要なアンケート用紙の文章も載せている。

活動資料集は100部作製。1冊300円プラス募金で販売する。冊子で紹介の計画書や呼びかけ文章、アンケート用紙などはデータでまとめていて、無料で使うことができる。

ネットワークの発起人の一人で、西町自治会長の大西勝己さん（68）は「自主防災活動をどのように進めていけばよいか分からないと感じている自治会長さんや防災責任者の方もおられるので、そうした人たちが一歩を踏み出すヒントになればうれしい。今後も資料集で、埋もれている活動を紹介していきたい」と話している。

活動資料集1についての問い合わせはネットワークの足立さん、携帯電話080・5369・3918へ。データがほしい人はメールで申し込む。

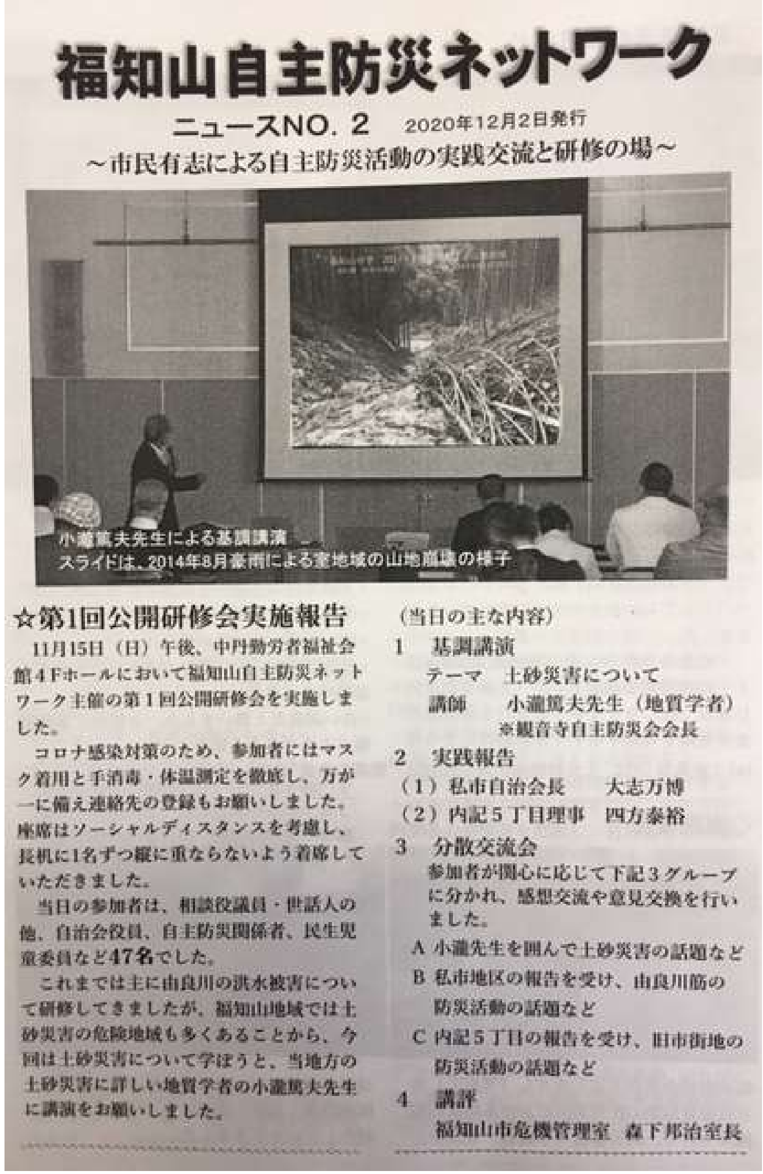
アドレスはfjisyubosainet@gmail.com

図や写真も入れ分かりやすい資料集になっている

木の枝に白い塊
下小田　モリアオガエ…

福知山市下小田の休耕田にせり出した木の枝に、モリアオガエルがたくさん卵塊を作っているのを、地元の西村茂さんが見つけた。16日夜には十数個あり、西村さんは「新聞などでは見たことがありますが、卵塊の大きさにはびっくりしました」と話している。

西村さんは野花の川口診療所の医師。自宅…



福知山自主防災ネットワーク

ニュースNO. 2　2020年12月2日発行

～市民有志による自主防災活動の実践交流と研修の場～

小瀧篤夫先生による基調講演
スライドは、2014年8月豪雨による室地域の山地崩壊の様子

☆第1回公開研修会実施報告

11月15日（日）午後、中丹勤労者福祉会館4Fホールにおいて福知山自主防災ネットワーク主催の第1回公開研修会を実施しました。

コロナ感染対策のため、参加者にはマスク着用と手消毒・体温測定を徹底し、万が一に備え連絡先の登録もお願いしました。座席はソーシャルディスタンスを考慮し、長机に1名ずつ縦に重ならないよう着席していただきました。

当日の参加者は、相談役議員・世話人の他、自治会役員、自主防災関係者、民生児童委員など**47名**でした。

これまでは主に由良川の洪水被害について研修してきましたが、福知山地域では土砂災害の危険地域も多くあることから、今回は土砂災害について学ぼうと、当地方の土砂災害に詳しい地質学者の小瀧篤夫先生に講演をお願いしました。

（当日の主な内容）

1　基調講演
　テーマ　土砂災害について
　講師　小瀧篤夫先生（地質学者）
　※観音寺自主防災会会長

2　実践報告
（1）私市自治会長　大志万博
（2）内記5丁目理事　四方泰裕

3　分散交流会
　参加者が関心に応じて下記3グループに分かれ、感想交流や意見交換を行いました。
A 小瀧先生を囲んで土砂災害の話題など
B 私市地区の報告を受け、由良川筋の防災活動の話題など
C 内記5丁目の報告を受け、旧市街地の防災活動の話題など

4　講評
　福知山市危機管理室　森下邦治室長

引き続き福知山自主防災ネットワークへの支援に取り組むとともに、こうした市内先進事例を他の地域に紹介、他地域で活用できる活動事例集を作成、取り組みの拡大を図る！

テーマ6-10関連　災害履歴の伝承

令和２年８月、国土交通省　近畿地方整備局　福知山河川国道事務所により、福知山市治水記念館へのA1パネル16枚、大型パネル2枚の設置！

・福知山市自主防災ネットワークの自発的な地域の防災力強化の取り組みとの連携・支援！
・マイマップ・マイタイムラインの作成等による防災教育の推進！地域の災害伝承の充実！
・市民啓発における治水記念館の活用！
・啓発パネルの新規作成等による「生涯を通じた防災教育」の強化を推進する！